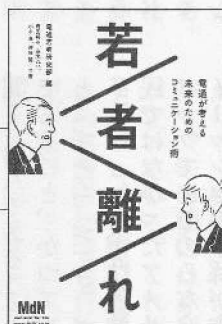




ブック

若者少数社会では、「量の影響力」が少ないことを理由に若者離れに陥っている。そのため、若者特有の感性やアイデアといった「質の影響力」を社会に還元できずにいる。「わかってもらえている」という安心感や信頼があれば、若者の行動は変わるのに、世の中にあふれる若者論のほとんどが、若者からすれば「わかってない」ととらえられている。

以上の観点から、本書では、若者に無理に共感するのではなく、かといって頭ごなしに否定もしない大人の理想的なスタンスを、「ズレ愛スタンス」と定義する。その内容は、①「誰かが」ではなく「私が」で向き合う、②「集団」ではなく「個」に向き合う、③「上から」ではなく「尊重」、④「Whyなき命令」ではなく「Whyの共有」、



若者離れ

電話が考える未来のためのコミュニケーション術

電通若者研究部 編
吉田将英、奈木れい、小木真、佐藤瞳 著
1620円 エムディエヌコーポレーション
☎03-4334-2900

⑤「どちらの論理」ではなく「共通の論理」の五つだと言う。若者のコミュニケーションについては、次のように述べる。サークルという「内輪」に閉じてしまうことによって「ほかのことに興味が持てない」「めんどくさい」といった外の社会に対する排他性につながってしまう。さらに、限られたコミュニケーションであることが、個人にとつての生きづらさにつながる。評者の所属する青年研究会では、この傾向を「みんなぼっち」と呼んでいる。本書では、サークルの持つWEの居心地の良さを

そのままに保ちつつ、新たな社会とのつながりの形と、人とのほどよい距離感を―として保てる形を両立したサークル用スマホアプリを開発したと言う。教育関係者としては、「みんなぼっち」の若者に対して、社会的視野を拡大させるための「ズレ愛」の方策を考える必要がある。（聖徳大学教授・西村美東士）